それでは続きまして、明治大学教育会では教育現場で活躍されている先生方の研究会活動も行われています。これからの研究会について、小研究会活動の報告をお願いいたします。報告される先生方とその報告タイトルは、次第の冊子の10ページから12ページに掲載しています。そちらをご覧いただきまして、お話を聞いていただければと思います。まず最初に世田谷区立希望丘中学校の小林隆介先生から、覚心の会の実践報告を伺います。よろしくお願いいたします。

小研究会活動報告　「覚心の会」実践報告

小林　皆さん、こんにちは。私は世田谷区立希望丘中学校の小林と申します。本日は、私が昨年の夏くらいから行っています研究会活動、勉強会のご報告をさせてください。簡単に今回の流れですが、自己紹介、背景、内容、いまの現状、そして私の夢です。最後に、この勉強会の目標とか理念についてお話しできればと思います。

簡単に言うと、伝えたいことは二つです。先ほどの小沼先生の話にもあったのですけれども、結論から先に言いますと、一つは出会いによって私は勉強することができました。そのお陰で生徒や保護者、自分の職場に、何かかたちになって返すことができたということをお伝えしたいと思います。

もう一つは、この勉強会の趣旨になりますので、最後に皆さんに気づいていただければと思います。一つ目は出会いによって変わることができた。もう一つは最後にわかっていただければと思います。自己紹介はこちらですが、これは流して結構です。

最初に勉強会の発足の背景ですが、こちらの大学の齋藤孝教授の授業を取ったころから始まりました。その授業の中で日文の学生と出会ったのですが、当時、私は全然本を読んでいなかった。どのくらい本を読んでいないかというと、小・中・高とサッカーをやってきまして、大学の日文の学生と読書会をしようということになったとき、『こころ』を読むことになったんです。登場人物に「K」というのが出てくるじゃないですか。「K という人はね」という話になったときについていけなくて、「漢字で書くと恵？」って聞いたんです。アルファベットですよね。

そのくらい本を読んでいなかった私が、本を読んでいる日文の人に教えてもらって、それで本を読むようになりました。大学2年、3年と続いていくうちに、私立の中学校で授業をすることになりました。その中でどういう授業をしていこうかというので、学生たちで集まって勉強するようになり、それがいまの勉強会の母体となっています。

そのときに同じゼミの先輩に勉強家のタカヤさんという方がいらっしゃるのですが、その人が原田隆史先生の東京教師塾というのがあるよと、紹介してくれました。その紹介を得て、自分もそちらの勉強会に参加するようになりました。

そしてもう一つ出会いがありまして、それは私が東京都の採用試験を受けたときの同じグループ面接の女性です。その方はスガさんとおっしゃる方で、いまは東京都の高校で働いています。アンジェラ・アキに似ている人です。その人が英語の授業の研究会があることを教えてくれました。その当時、私は英語の授業について勉強もほとんどしておらず、

こういう研究会活動があることさえ知りませんでした。

その人から勉強会があると教えてもらって、採用試験を受けたあと、どういう指導法があるか、どういうふうに教えていいかわからなかった私に勉強する場を教えてくれて、それで参加できるようになりました。その中で「プロフェッショナル　仕事の流儀」でも有名な田尻先生やほかの先生方と出会い、いろいろ教えを受けることができるようになりました。

私が大学生になってからいままでにいろいろな人と出会って、その出会いによって学びが広がることに気づきました。

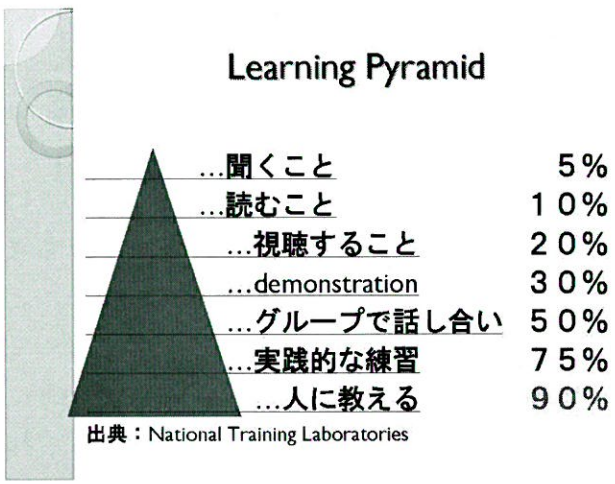
いままでの前半部分は、出会いによって私は勉強することができましたということと、あとはいまの勉強会がそういう流れで少しずつ形づくられていったというお話です。

もう一つ伝えたいメッセージがこちらです。学習ピラミッドというのがあります。

こちらはアメリカの研究者が出したものですが、何か学んだときに定着するものというのは、この流れで多くなっていく。たとえば私の話を聞いたとしても、数時間後には5%しか残っていないだろうと言われています。

ところが聞いたものではなくて、たとえば書かれたものを読むと 10%、オーディオビジュアル、映像とかを使うと 20%、実際に私がデモンストレーションをしたら 30%、そしてグループ同士の話し合い、この場で皆さんに話し合ってもらったとしたら 50%、そして実践的な練習、つまりたとえば英語であれば実際に使って話してみるとか、インタビューをしてみるというかたちで実際に使ってみると、その事項が 75%定着すると言われています。

最後は定着率が 90%ですが、さて何をすれば定着率が 90%あると言われているとお考えになりますか。ありがとうございます。どうぞ。



フロアーからの発言　教える。

小林　素晴らしいですね。ありがとうございます。人に教えるということは、定着率が高いと言われています。

勉強会の発足の背景ですが、出会いによって学びが深まる、広がるということで始めました。そしてもう一つは、いま言ってくれたことで、人に教える。つまり学んだ自分が発信して、自分が実践しながら進んでいくことで、自分の学びが深まることを目標にしています。

研究会とか勉強会に行って、いろいろな知識を得たとします。ニーチェがこういうことを言っています。「私はいま、私の知恵の過剰に飽きた。ミツバチがあまりに多くの蜜を集めたように、私は私に差しのべられる諸々の手を欲する」。つまり私は勉強をしすぎて、誰か吸い取ってくれないと困る。過剰すぎてパンクしそうだという状況になるくらいまで学ぶことも大切なのではないか。そして発していく中で自分が学んでいくのではないかと考えます。

勉強会の内容ですが、新年明けてから、次に発表される大澤先生と二人で、「今年の目標はどうする？」と話し合いながら、マッピングしていきました。項目を心・技・体・生活に分けて目標を書き、互いにプレゼンをしました。

次は去年の夏、8 月 3 日だったか、明治大学の学生と私の知り合いとで速読についての勉強会をしました。だいたい 4 時間、5 時間くらいでした。フォトリーディングという言葉があるのですが、いま流行っている、神田さんとか勝間和代さんが紹介されている速読の方法を勉強しました。それがだいたいの勉強の内容です。

あと勉強会の現状としては、メンバーは小学校の先生、埼玉の先生ですが、社会人の方、大学院生もいらして、いろいろな方がいらっしゃいます。興味、関心が異なって、いろいろなことを教えてくれます。

参加条件は特にないのですけれども、ただ発表する場なので、それぞれ皆さんがご興味のあることとか勉強されたこと、この本はいいよということを紹介しあう会になっています。次回は 12 月 20 日の 2 時から行う予定です。場所はまだ未定です。

私の夢は、そこにいる大澤先生と去年の暮れに東京駅の喫茶店で紹介しあったのですけれども、数えたら 75 個ありました。100 個行くのが夢だったんですけれども、その中の勉強会についての夢を書き出しました。いまの勉強会を組織して、私は英語科なので、これから英語科の勉強会を開いて、発信して、自分がよくなって、生徒に返せればいいと思っています。実家の宮城に戻って、とかいうこともあります。

最後に勉強会の理念ですが、各自が学んできたこと、出会いによって知り合った皆さんが自分の学んだことをアウトプットすることで、そしてシェアすることで、お互いが高まっていくような会にしたい。そしてもう一つ、それによってまず自分自身を変えることを大事にしたいのです。

学んだから、勉強会に参加したから、発表しているからいいというのではない。それによって自分が変わって、行動が変わって、少しずつ学校にいる生徒が変わっていった、よくなっていったというのがいいことであって、勉強会をすることを目的にしてはいけない

という話は友達としています。

ちょうど時間が 10 分くらいなので、これで終わりますが、もしご参加していただける先生方がいらっしゃいましたら、資格課程のほうに連絡していただけると、連絡が来るようになっていますので、よろしくお願いします。どうもありがとうございました。(拍手)

司会　小林先生、ありがとうございました。続きまして都立新島高等学校の伊藤隆則先生から、月一日曜読書会の実践報告をお願いいたします。

小研究会活動報告　「月一日曜読書会」実践報告

伊藤　こんにちは。都立新島高等学校に勤務しています、地理歴史科教員の伊藤隆則と申します。いまこの会場にいる学生の方、手を挙げていただいていいですか。半分強くらいでしょうか、結構いますね。

先に講演いただいた小沼先生の話とかなり関連するので、そのことの確認から入らせていただきたいと思います。小沼先生の中でいくつかお話があったのですけれども、いま新しい学習指導要領が出ましたが、そのもっとも重要なメインテーマはこれであるというお話がありましたよね。それが何かというのを聞いてみたいのですが、前から 3 列目の一番手前側に座られている方、さて何だったでしょうか。平成 21 年 3 月に交付された新学習指導要領のメインテーマは何というお話だったでしょうか。

フロアーからの発言　伝えることですか。

伊藤　だいたい OK です。もうちょっと言うと、何でしょうか。伝えるのも入っていますけれども……。

フロアーからの発言　筋道を立てて伝える。

伊藤　そのとおりです。そういうことです。言語活動の能力を高めようというのが、方針としてどんどん強くなっているのですが、それが国語科だけではなくて全教科、教育活動全体をあげてそういう力をつけていきましょうというのが、今回の学習指導要領の最大のポイントと言ってもいいかと思います。ありがとうございました。

それは大学生がこれから社会に出て行くにあたって、一番重要な力でもあるというお話でしたよね。そういうことです。言葉を使う力、あるいは何かを読んで、それを自分のものにして発信していく力が必要だというのは、私が就職活動をしていた 8 年くらい前に、もう言われていたのです。コミュニケーション能力が重要だと言われていました。

そのあたりから問題意識があって、こういう活動をやっています。11 ページを見てください。読書会です。非常に地味なタイトルですが、読書会をやっています。そのときから問題意識は同じですけれども、何か情報を自分のものにして、その情報を人に伝える、あ

るいは人と解釈の違いを共有して、読みをもっと深めていく。そういう活動がおそらく教員の基礎体力をつくるうえで一番有効なのではないかという現状認識から、この活動をスタートしました。

だいたい8年くらい前ですが、そのころとやり方は変わっていません。1番、形態は月1回です。学生のときはもっと多かったのですが、日曜日に神田の三井住友ビルディング、駿河台の坂を下りていって、書泉ブックマートの交差点を渡ってしばらく行くと、タリーズコーヒーがあります。そこで毎月やっています。通例、2時くらいから始めて、だいたい3時間くらいやっています。終了したあとに食事会を行うことも多いです。

手順としては、写真を見ていただこうかと思います。見えるでしょうか。後ろの方、見えますか。大丈夫ですか。まず本を買います。メールで「次の読書会はこの本でやります」というのが来るので、本を買います。本を買ったら、齋藤先生のやり方ですが、こういうふうに例の3色で線を引きながら読んでいきます。一番大事なところは赤です。これは『ユダヤ文化論』の本ですが、3色で線を引きながら読んでいきます。

読書会ではマッピングですね。さっきの小林君のあれにもありましたけれども、あの手法で話をしながら情報を整理していきます。だいたい3人から4人くらいのグループで同じ本について話をしながら、一つのマップ、その本がどういう仕組みになっているか、その3人なり4人はどういうところにひっかかったのか、どこに関心を持ったのかというのを全体で整理していきます。

日によっては、こんな図が書かれることもあります。これは吉本隆明の『共同幻想論』です。こういうふうに島がつながっていくような、いわゆる典型的なマッピングみたいになることもあります。これは『滝山コミューン』ですね。これもそうです。これは『スピノザの世界』です。

研究会と言われても、入るときには、どういう感じでやっているのかというのが気になると思うので、こんな感じです。かなりゆるいです。コーヒー屋の端っこのほうに座って、各自が本を持ってきて、真ん中にこういう感じでA3なりB4の紙を1枚置いて、あとは3人とも同じ本を持っていますけれども、自分で線を引いたところを参照しながら、自分の読みを展開していきます。普通にやっていると2時間くらい、すぐ経ってしまいます。

これも同じです。これは終わったあとに写真を撮ったのですが、いかにもやっているように写真を撮りました。これで終わりでしょうか。ありがとうございました。

レジュメに戻りますが、手順はいま説明したとおりです。その中でも大事なところは、司会者を立てない。メインになる人を特に決めない。3人なり4人がイーブンに自分の読みを話す、相手に伝える。逆に相手の読みを伝えられて、そこでいま言語力というところで非常に重視されているポイントですが、根拠をあげて話をします。テキストの何ページの何行目にこういうふうに書いてあるから、こう解釈できるのではないかとか、そういう力を鍛えることができると思います。

単に自分がこういうふうに思ったからこうだというのではなくて、同じ共通のテキストを読んでいるので、ここにこう書いてあるからこう解釈できるのではないかというところ

を通して、根拠をあげて、筋道を立てて話す力とか、あとは資料を分析する力とか、ここにこう書いてあるというのを3カ所くらいあげて説明したほうが論拠はより強いので、そういうところを定期的に鍛えることができると思ってやっています。

あとは自らに引きつけて話す。教員だったら教員で、現場で教えていて感じている関心とか、困っていることとかに引きつけてテキストを読んでいくとか、あるいは構造化して考えるわけです。いまのマッピングでもそうですけれども、全体としてどういう話になっているか、全体像を意識していくあたりを留意しながらやっています。

3番、開催決定の原則ですが、3人以上の参加が見込まれる。そしてその3人が本の80%以上読んでいるというのを条件にしています。小林君の会でも参加者が少ないということが書いてありましたが、3人いればたぶん何とかなるでしょう。そこでやっています。中止ということもときどきあります。

下の実践例を見ていただきたいのですが、だいたい毎月、何とかできているという感じで、ここまで来ています。教員も来ますし、新聞社の記者とかも来るのですが、最近は教員が多いですかね。あと学生もたまに来たりしますが、だいたい誰の関心にも寄らないように、小説、論説、小説、論説という感じでやっていくと、バランスがいいのではないかと思います。

中身としては、ここにあげたような感じです。固い本からやわらかい本まで、私はできればやわらかい本をやりたいと思っているのですけれども、そのメンバーの中で次にやる本を出し合って決めているので、いろいろ入ってきます。

最後に5番ですけれども、おそらくここが一番重要ですが、私の考える効用です。何のメリットがあるのか。まず社会人になると、なかなか本が読めなくなるということがありますので、本を読むモチベーションを維持する。あと、ただ読んだだけではなくて、それを人に伝えるということです。教えれば、定着率が90%ということもあるので、外にアウトプットすることで、それを自分のものにするわけです。

次に、私が個人的にメリットがあると思っているのは、異業種とか異校種との接触です。自分とは違う立場で教員をやっている人とか、一般企業に勤めている人と話すチャンスがだんだん減ってくると思います。大学にいると、就職活動をしている友達とかいると思いますが、それが減ってくると、いわゆる世間を知らない教員みたいになってしまうことは怖いと思います。なるべく教員ではない人と真に腹を割った話がしたいと思っているので、このへんもメリットがあると思ってやっています。

あとはマッピングとかプレゼンテーションとか、本を読むときの方法論、3色ボールペンを使って読んでいくとかいうことも、一つやり続けていると言えるようなスキルとして身につくかと思います。その3点くらいは効用があると思っています。

とはいえ、研究会というと堅苦しい感じがすると思うのですが、かなりゆるい感じです。

コーヒーを飲んで楽しく話せればいい、くらいのところでやるのが、一番本当なのだろうと思ってやっていますので、教員の人間関係を広げたいとか、そういう興味がある方に来てほしいと思います。

そんなに急にたくさん勉強したいですと言って来られても、こっちも引いてしまうので、友達になるところから、ただし本はちゃんと読んできてね、という感じでお付き合いしたいというのが本当のところでしょうね。かなりゆるい説明になってしまいましたが、だいたいのところをお話しできたかと思います。

資格課程事務室のほうに連絡をいただければ、こっちに連絡が来るようですので、もし興味がありましたら、よろしくお願いします。興味があったらで結構ですので、よろしくお願いします。以上です。(拍手)

司会　伊藤先生、ありがとうございました。続きまして市川学園中学・高等学校の大澤和仁先生から、研究会の実践報告をお願いいたします。

小研究会活動報告「目標設定会」実践報告

大澤　皆さん、こんにちは。よろしくお願いします。自己紹介からさせていただきますが、現在、私は千葉県にあります私立の市川学園中学・高等学校で非常勤講師として働いています。その一方で昨年度、明治大学を卒業したのですけれども、筑波大学大学院教育研究科教科教育専攻国語教育コースという、修士課程の1年生として在学もしています。週半分は学校で非常勤、週半分は大学院ということで、両方やらせていただいています。

資料 12 ページを開いてください。先ほど小沼先生の話の中で、現代社会と学生の言語力のギャップを埋める手立てということで、目標の話をされていたと思います。先日、私は 2009 年 10 月に小林先生と、今日はいらしていないのですけれども永持先生という方と共に、明治大学の学生を中心に 13 名の学生と、目標設定の勉強会というものをやらせていただきました。

その中で書いたのは、先ほど小林先生が原田隆史先生という方を紹介されていたのですけれども、その方が提唱している「原田式長期目的・目標設定用紙」※1 というものがありまして、その理論に依拠してやらせていただきました。これは実際に私が書いたものです。

ちょっと見づらいのですが、私はいま中学サッカー部の顧問をしています。夏に中学 1 年生の大会があったのですが、夏の大会で優勝したいというのが最高の目標です。先ほど目標のストレッチという話もあったのですが、そういう目標を立てて、その目標はどんな意味があるのだろうということを、自分のためと、社会とか他者のためというものを書いていきます。

それからこれまでの人生でいろいろなことにチャレンジしたときの、失敗の分析、成功の分析を細かく書いて、解決策、それから日々どうやって頑張っていくか。それからいつまでにこういうことをやるか。たとえばサッカーですと、いつまでにディフェンスライン

の修正をする、ではないですけれども、相手学校の偵察に行くみたいなことを事細かに決めて、誰に支援者を募るかということを細かく書いて、目標を設定する。これが目標設定用紙（図 1）というものです。本番はここまで細かくはできなかったのですが、学生の皆さんにこのようなものを紹介するという勉強会を行いました。

その活動内容としては、こういう目標設定用紙とか、あとはルーティンチェック表を作りまして、そのために日々どういうことをやっていこうかを書きます。たとえばこれは自分自身のもの（図 2）ですけれども、毎日、英語の文献をちゃんと 1 時間やるなど決めて書いたものです。そうすると、毎日することが明確になり、日々の生活の質が上がると考えております。

目的は、この勉強会を行ったときに小林先生が採用試験の対策のお話をされました。学生ですと、採用試験のために、そのあと勉強を積み重ねていかなければいけない。そのときに使えるかなと思ったことと、あと実際に私が部活の指導をするようになったとき、こういう手法はすごく使えると思ったので、それを学生の皆さんと共有してやっていく勉強会を、ワークショップ形式だったのですが、1 度限りですけれども、やらせていただきました。

この会は、今日は来ていないかもしれませんが、いま政治経済学部 4 年の松本さんがセッティングして、学生の皆さんを集めてもらってやりました。資料の 12 ページに課題とありますが、この勉強会は継続的というより 1 回限りだったので、とりあえずこのような勉強会をしたということを、今日はお話しさせていただきたいと思いました。

次に②、LIB と書いてありますけれども、隔月の勉強会を行っています。目的としては、各人が異業種であり教員だけではないので、それぞれの業種の中で目標を設定していき、それに向かって日々、研鑽を積めるように促す会をしていきたいということでやっています。

活動内容としては課題本、予備校の経営者の方とか働いている方がいらっしゃいますので、基本的に経営者の本と考えることが多いのですが、そういう読書会や、あとは自分が前回立てた目標がどこまでできたかということをシェアするような会をしています。

参加者は予備校の経営者の方や大学院生、飲食店勤務者、会計士の方などです。もちろん明大出身の方もいらっしゃいますし、そうじゃない方もいらっしゃいます。

成果としては、異業種交流ができますので、ほかの仕事ではこういう悩みがあるということを一緒に学べます。それから日々の活動のモチベーションとなることが成果としてあげられます。

課題としては、内輪の活動である。研究会というのは内輪だと思いますが、いま場所がなくて、参加者の一人の方の家でやらせていただいています。場所がないというのが一つの大きな課題かと思います。紙を広げて書いたりします。このような紙（図 3）をつくって、たとえばこんなことをやろうとか、付箋で出したりするので、喫茶店とかではできない。それで家でやって人数が限られてしまうということがありますので、一つは場所が問題です。

今後の展望ですが、いまご紹介した勉強会は、2 番は参加者の方の自宅ということで、

あまり多くの方を募れない。私としては教員になってまだ半年なので、長年教員をされている方の前で話すのはとても僭越ですが、定期的に教科の勉強がしたいということを強く感じています。

なぜかといいますと、現在、中学２年生の国語の授業を持っているのですが、そこで教科書を使う授業とは別に、ディベートとか作文という授業をやらせていただいています。しかし指導書や本で研究の実践例を見ても、どのような問題があって、どういう点で使えるのかということがわからず、あまり納得のいく実践ができないわけです。そういうときに、私は国語科なので国語科の経験豊富な先生方とか、同じくらいの年でも大学生の方でもいいのですけれども、いろいろなアイディアや実践の報告ができるようになったら、一番いいのではないかと思っています。

そういうことをしたいと言っているだけでは始まらないので、いまあちらに座っていますが、横浜で国語科の先生をやられている植村先生と、それから文教大付属中学・高等学校で先生をやられている宇野先生と、国語科の勉強会を開きたいと思っています。具体的な日程はまだ決まっていないのですが、１月から開催していきたいと思っていますので、もし明治大学の事務局を通じて発信などできれば、やらせていただきたいと思っています。

面倒くさい事務的なことは私がやるので、ぜひ年上の先輩の先生方にもいろいろなことを教えていただきたいと思っています。以上です。ありがとうございました。（拍手）

※1「原田式長期目的・目標設定用紙」は原田隆史氏が考案したものであり、著作権は全て株式会社原田教育研究所にあります。今回の掲載は原田教育研究所に許可をいただきました。

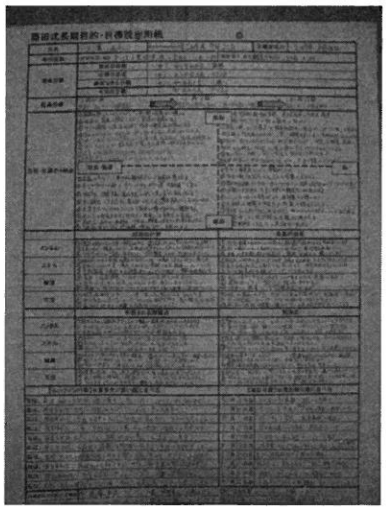


図１

図２

図３

司会　大澤先生、どうもありがとうございました。それぞれの研究会の活動報告をこれで終えさせていただきます。以上で今年度の明治大学教育会総会・研究会を終了いたします。閉会の挨拶を熊谷顕明治大学教育会副会長にお願いいたします。

閉会の挨拶

熊谷　失礼します。長時間にわたりまして、協議それから研究発表をお聞きいただきまして、大変お疲れになったかと思います。ありがとうございました。私のほうからは一言、お礼を述べさせていただければと思います。

第 2 回明治大学教育会総会ならびに研究大会ということで、本日は遠くからおいでの方々もいらっしゃると聞いています。本当にありがとうございました。総会で会則も定まりました。その会則の初期の目的ということで、今後は研究大会とか研究会が企画され、そして実際に行われることになっていくかと思います。

また今日は静岡と宮崎の教育会の支部が設立承認ということで、大変めでたいことでありますと同時に、そのご努力に感謝申し上げたいと思います。鳥取は来年からということですので、また来年ご報告をいただけるということで楽しみにしたいと思います。

研究大会発表のほうですが、小沼先生は大分から、本当に遠くからお忙しい中をおいでいただきました。私も聞いていて、大変参考になりました。特にわかりやすく短く話すということを、これから気をつけていきたいと思っています。また、いま 3 人の現場の先生方から日常の研究のご発表がありました。それぞれ大変素晴らしい勉強、研究をされているということで感心しているところです。

最後にお願いですけれども、ご出席の先生方はお帰りになられましたら、近くにおいでの明治大学出身の先生方に、今日の教育会のこと、発表のことをぜひお話しいただきまして、来年はその方とご一緒にまたここでお会いできればと思いますので、よろしくお願いします。

いずれにしましても、この教育会を研究発表の場にして、長く研究を続けて、いい教育的力をつけていきたい、また交流を図りたいと思っています。本日はどうもありがとうございました。（拍手）

司会　熊谷副会長、どうもありがとうございました。以上で本日のプログラムはすべて終了いたしました。このあとの懇親会は 16 時半より、この建物の 23 階のホールで開催します。入口両サイドのエレベーターをご利用になりまして、23 階までお移りいただきたいと思います。

なお甚だ恐縮でございますが、懇親会は会費制となっていまして、会員の皆様は 3000 円、学生の方は 1000 円となっています。お支払いがお済みでない方、急遽参加される方は、23 階でも受け付けますので、よろしくお願いいたします。また懇親会に出席なさらず、これでお帰りになる方がいらっしゃいましたら、出口でネームプレートを回収させていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日は長時間にわたりまして、不慣れな司会にお付き合いいただきまして、どうもありがとうございました。以上で締めさせていただきます。（拍手）